



こどもみらい館研究プロジェクト報告会

平成24年1月27日（金）に、こどもみらい館において開催しました

こどもみらい館では、「保幼小連携研究プロジェクト」「子育て支援研究プロジェクト」の2年間にわたる研究活動を取りまとめて発信するため、平成24年1月27日に研究プロジェクト報告会を開催しましたところ、市内の保育士・幼稚園教諭をはじめ、教育関係者、関係機関、また他都市の教育関係者など100名を超える多数の方々のご参加をいただきました。

当日のアンケートの中で、保幼小連携研究プロジェクトの報告では、「子どもの心の育ちをつなぐことが連携の大切さであることが良く分かりました」「エピソードから、子どもの成長を感じ感激しました。連続していくことで子どもの主体的な成長につながる事が分かりました」など、保幼小連携を考えていくうえでの具体的な方向性や方法につながる感想をいただきました。子育て支援研究プロジェクトの報告では、「子育て、子育ての両面からの視点についてよく分かりました」「エピソードから多くを学びました」など、子育て支援を考えていくうえでの視点についての感想をいただきました。また、「研究していくこと、異なる機関が共通のものに向かうこと、大変意味深いです」といった「共同機構」としての研究の感想とも言える内容もいただきました。

さて、「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」におきましては、保育園(所)と幼稚園とが、互いにその保育・教育内容を理解し、学び合い高め合いながら連携を深めていくことと、地域の子育て支援の中核施設として、地域の子育て力の向上のために寄与することが求められています。

報告会のアンケート結果は、こうした保育園(所)と幼稚園に求められている今日的な役割について、少なくない示唆を提示することができたと、胸を撫で下ろしています。研究プロジェクトの発足はもとより、この2年間の取組を牽引・支援して頂いた関係者の皆様には深く感謝を致します。

こどもみらい館は、各研究プロジェクトで明らかになった成果と課題を土台として、また「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の今日的動向を踏まえ、新たな研究事業を展開してまいりますので、引き続き一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



遊びと言葉・コミュニケーション

講師 森山 卓郎 京都教育大学教授

京都教育大学教授。京都教育大学附属幼稚園長、文部科学省検定国語教科書編集委員（中学・小学校：光村出版）、日本語文法学会評議員、日本語学会評議員。研究分野は、日本語の文法論に関する研究を中心に、コミュニケーション論、言葉と教育の諸問題。著書に「日本語動詞述語文の研究」「表現を味わうための日本語文法」「コミュニケーションの日本語」他。

子どもたちは、友達のことやコミュニケーションのことで悩みごとが多いというデータがあります。子どもたちのコミュニケーション力を育てることが大切です。保育園（所）、幼稚園の子どもたちは、「じゃあ」「ほな」と言う言葉が使えるようになると言葉で自主的に問題解決ができるようになっていきます。次へのステップに移るきっかけとなる言葉だからです。子どもたちは遊びの状況の中で「じゃあ」「ほな」が使えるようになったり、相手の思いに添った話し方をしたり、友達の思いを整理することを学んだりします。このためには、先生が子どもたちの間に立ち、心のやり取りの中継地点になるような関わりが必要です。ただ、五歳児くらいになると自分たちで話し合いをしていけるようになりますので、あえて主体性を尊重してそばで見守るという関わりも大切です。コミュニケーション力の育ちのためには、いろいろな相手といろいろな状況でしっかり関わって、思いを伝え合う経験が大切です。

また先生の言葉は子どもたちにとって大切なモデルとなります。言葉というものはともすれば無意識になりがちなものですが、一つ一つの場や状況に応じて、言葉を大切にしたい豊かなコミュニケーション力を育てていきたいものです。

＜参加者のアンケートから＞

「森山先生の優しい口調は言葉のコミュニケーションのヒントになりました」「普段大人がしている話し方や会話が、子どもたちにとってはモデルになっていると改めて思いました。子どもたちのコミュニケーションが広がる場をたくさん提供できたらいいと思います」などの感想がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#) 講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。[要録ページ](#)

子どもにとっての表現とは

講師 平田 智久 十文字学園女子大学教授

現在、十文字学園女子大学人間生活学部幼児教育学科教授。専門分野は、造形発達、造形表現。日本保育学会評議員、財団法人教育美術振興会監事、幼児造形教育研究会会長、中央教育審議会専門委員（初等中等教育分科会、平成20年まで）など幅広く活躍。著書には、「すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現」「0歳からの造形遊びQ&A」「保育内容「表現」」「毎日が造形あそび0～5歳児」「幼稚園教育要領の基本と解説」「子どもとデザイン」「新聞紙であそぼう」「つくってあそぼう12ヶ月」「3歳児の造形」「スペースデザイン」等。ビデオ「子どもの絵—0歳からの絵の特徴とその意味—」。「幼児の教育」「ピコロ」「012歳児の保育」「エデュカーレ」など月刊誌に執筆中。

「子どもにとっての表現とは」を考えるにあたり「あそびとは」「豊かな感性とは」「自分の思いを表現するとは」何だろうと、少なくともこの三つは考えていきたいと思いました。

保育所保育指針も幼稚園教育要領も五つの領域の共通した部分は同じであり両方とも通じているということです。環境や人間関係で育てようとしていることを保育所保育指針や幼稚園教育要領を読むと遊んでいないとできないことが分かります。ですから日常生活がどんなに大事かです。

感性とはImageすることの豊かさ、行動することの豊かさです。いろいろ考えられる子、いろんな行動を取れる子が素敵な子なのです。つまり「感じる」「考える」「行動する」という三つが一番大事です。

表現とは「表す」と「現れる」とです。ですから私は「表と現」と考えます。絵の中では全部「表」があるのと同時に「現」があるのです。つまり「表」とは意思であり、聞く耳を持つということです。絵もそうですが、やったそのものを認める言葉をどれだけかけられるかが大事なことです。「現」は内的な変化であり、それは往々にして無意識なのです。感じ取る、読み取ることがここで初めて必要になるのです。大事なことは「表」と「現」でくっついているということです。

＜参加者のアンケートから＞

「すべてが表現なんだと感じられました。自分自身もたくさん考えて感じていくことが大切だと思いました。」「小学校就学前における子どもの「表現」の捉えがよく分かりました。小学校教育にも活かしていきたいものです。」という感想がありました。

この講演会のビデオ・DVDを貸出しています。[貸出要項へ](#) 講義の詳細は、[要録ページ](#)をご覧ください。[要録ページ](#)

子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
（「子どもを共に育む京都市民憲章」より）



発行日 平成24年3月15日
 発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
 〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
 Tel (075) 254-5001 Fax (075) 212-9909
 URL <http://www.kodomomirai.or.jp>